

シニアカレッジ 25年A「動く市政教室」

テーマ： 西区を知ろう

開催日 令和2年10月 6日（火）

新潟駅南口 ⇒ 県水産海洋研究所 ⇒ アクワパークにいがた ⇒ 市文化財センター
⇒ 雪梁舎美術館 ⇒ 新潟駅南口

「動く市政教室」も今回で4回目となりました。1回目は「西蒲区を知ろう」で澤将監の館→中之口先人館等。2回目は「北区を知ろう」で東港コンテナターミナル→新潟火力発電所等。3回目は「新潟市の重要施設見学」で新潟県庁→消防局等でした。これは新潟市高齢者支援課が市内の公共施設等を見学するときに福祉バスの案内で毎年募集しているのを利用したものです。今年は3月に新潟県でも新型コロナウイルスが確認され、3密を避けるため外出が制限され、6月に計画していた「動く市政教室」も中止となり、10月の開催も心配されましたが、各施設ともマスク着用での見学許可を頂き実施することとしました、計画した本人も初めてのコロナ過の最中での施設見学であり最後まで無事に終えることが出来るのかどうか心配していました。

内野から新川沿いを国道402号線に出て、寺泊方面に向かうと海岸寄りに研究所があります、普段ここを通っていても気がつきませんでした。ここでは海洋観測、試験操業、生物測定等のデータを解析して漁況予測を行ったり、漁業調査船で本県沿岸から日本海沖合域の海洋調査、漁場調査等とそれぞれについての研究も行っています。この研究所の見学は子供たちに人気だそうですが私たちも子供に返って楽しみました。

私達には「研究歓迎の字幕の入ったスライド」まで準備され研究所内全般の説明をしていただきました。

新潟県水産海洋研究所では新潟県の近海で採れるブリ、アジ、サバやイワシなど浮魚類とヒラメ、カレイ、マダイ等のほかエビ、カニなど底魚類の資源に関する調査研究、また藻類の増養殖技術の開発に加え漁港の施設を活用しての増養殖技術の研究等の他水揚げされた水産物の品質向上に関する研究として、研究所内では機器や設備を動かしその能力や出来具合(冷凍技術等)も調べ確かめておりました、また透明なガラスの水槽をいくつも使って藻の成長過程など何年もかけてしかも詳細に実験や調査・研究が行なわれております。

天候をはじめ海流や海水温、海底の地形状況や新潟地域の特性など当然のことでありましょう、それらは新潟県水産海洋研究所独自の研究成果としてホームページにて最初は英文・次に和文で掲載されております、おそらく世界中に発信されていることと思います。水産試験所所員の方達が、私達への説明をするときのまなじりや顔つは職員でなく研究者そのものであります、丁寧な説明の中に非常に頼もしく感じられました、四六時中海洋や水産のことだけ考えておられるのかも知れません。

新潟県の海岸線は非常に長くまた大きな河川が何本もあり、その全てが日本海に接しています。それだけに日常魚類をはじめ水産物の恵みを頂いておりますが、私達は水産資源のことは何も知らないと同じです。

今回新潟県水産海洋研究所への研修で得た知識は家族をはじめ機会を得て地域や子供達にも紹介していきたいと思えます。最後に「福井県の越前カニ」と「新潟県の越後ベにずわいカニ」の違いなどのお話をして頂き面白かったです、大変お世話になりました。

昼食は、アクアパークにいがたで、みんなでお弁当を食べながらおしゃべりを楽しみました。市文化財センターは、新潟市内の遺跡から出土した土器や石器などが展示されており、ボランティアによる説明で新潟市内の遺跡が多いことにびっくりしました。また敷地内にある市指定文化財「旧武田家住宅」と「蓄動舎」も見学しました。雪梁舎美術館は、新潟ふるさと村の近くにあるのに、今まで全く知りませんでした。「常設展示室」では、感動的な絵が展示されており、ほかにドイツのマイセン窯の磁器を展示した「マイセンの部屋」や「シャガールの部屋」もありました。美術にあまり興味のない私でも仲間とおしゃべりしながら見て回ると楽しかったです。

今回は女性5名参加して頂きまして、久しぶりの楽しい時間を過ごす事ができました。コロナウイルスの影響で今まで当たり前できていた事をできない日々が続いています。こんな時だからこそ、つながりを大切にしたいと思います。

女性5名の方達はパソコンとスマホでラインや SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)を使って連絡をとりあい参加したものであります、なかにはパソコンにて首長の施政方針を家にいながら動画配信を受信している方もいます。

今までは通信料に割高感がありスマホの利用が少なかった、今年から通信料金がいくらか安くなるようで身近に感じられます、私達ももっと情報通信技術を使って同期会の活動を展開して行きたいと思えます、女性陣に負けられません25A 同期の全員がみんな同じレベルで使えるようにしたいと思います。

一方で地域の文化、歴史と伝統ある文芸誌が2018年度で発行予算カットにより廃刊となりました、今後行政の業務はアナログからデジタル化をますます進め IT(情報通信技術)を使ったサービスが多くなることでしょう。

行政予算の再配分と新型コロナウイルスの影響で私達を取り巻く環境は随分と変わるようです、同窓会事業も今までとは違った方法になると思えますが落ち着いて作業をやりたいものです。